

吉賀町農業振興ビジョン（案）に対するパブリックコメント（意見公募）の結果について

1. 意見の募集期間 令和5年2月27日（月）から令和5年3月13日（月）
2. 実施方法 町ホームページへの掲載、役場庁舎における閲覧
3. ご意見の提出数 10件

この度、提出していただいたご意見と、本町の考え方をまとめました。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

※寄せられたご意見については、内容を一部要約しております。

No.	ご意見の概要	町の考え方
1	<p>町長施政方針に、振興計画作成に当たって「地域の実情に即した振興ビジョンを作成」とあります。</p> <p>農地の半分は、3ha以下の農地を耕作する生産者によって管理され、集落が支えられています。高齢になっても、赤字でも、農道、用排水路などの管理を続けてきたから農地が守られてきました。</p> <p>一方、水稻中心の専業農家で、広い面積を管理する生産者の場合、米価の低迷が直接経営に重くのしかかっています。</p> <p>兼業や高齢の生産者は、手間のかからない水稻の作付で、農地を荒らさない努力を続けています。</p> <p>これが、地域の実情ではないでしょうか。</p>	<p>吉賀町は経営耕地面積3ha未満の経営体が、約6割を占めています。住民アンケートの結果によると、農地や道路・水路の維持管理は8割の農家が個々に対応しており、小規模農家は農地の利用や農業用施設の維持保全に大きな役割を果たしています。</p> <p>また、米価の低迷は、水稻を栽培する大規模農家だけでなく、小規模農家にも影響を及ぼしています。</p> <p>これらの課題を踏まえたうえでビジョンを整理し、地域の実情を踏まえた「地域計画」の策定や、担い手の確保、水田園芸の振興、農振環境の整備に取り組んでいきます。</p>

No.	ご意見の概要	町の考え方
2	<p>国の農業政策を是とする方向で、町内の農業生産が発展するのでしょうか。</p> <p>家族農業に焦点をあてた、持続可能な農業の在り方という視点から再検討し、生産者への直接支援、個別の支援体制の構築など、個々の生産者の状況に合わせた経営戦略を考える仕組みづくりが農業振興のために必要と考えます。</p>	<p>国は「食料・農業・農村基本計画」の中で、地域の農業生産を持続可能なものとしていくために、中小・家族経営など多様な経営体への生産基盤の強化に取り組むとしています。</p> <p>町の厳しい財政状況の中で、限られた財源を有効活用するためには、国や県の補助事業を使い、農家の負担軽減に努めることも必要です。</p> <p>農業の担い手として、農業以外の事業にも取り組む農業者（半農半X）など、多様な形で農村に関わる者の参入を促進していきます。</p> <p>また、小規模農家の経営に対する支援については、県や農協等と連携し、町として可能な支援を検討して参ります。</p>
3	<p>ビジョンの実現に向けて、農地や農業用施設の維持保全を集落で協力しようにも、生産者が減少しており1人当たりの負荷が大きくなっていることを解決する方向が見えません。</p> <p>農業に関連する経費が上がり、農業部門の赤字は拡大していますが、農地の受け手が増える条件はどこにありますか。</p>	<p>現状では、農地の受け手（農家数、経営体数）は、減少傾向にあり、増える要素は乏しいと言えます。</p> <p>ビジョンでは、法人化等組織経営に活路を見出していくことを方向性として整理しています。水田農業においては、関連対策の活用を通じて経営安定を図ることも重要であり、限られた労力を活用し省力化を図る上でも、集落営農の取組が有効と考えています。</p> <p>また、個々で経営されている方もいるため、地域での話し合いも踏まえて地域計画を作成することとしています。</p>

No.	ご意見の概要	町の考え方
4	<p>後継者へ営農の継承が進まないことへの分析が見えてきません。</p>	<p>後継者への継承が進まない理由は、住民アンケートの結果によると「後継者不在」「米価低迷」「畦畔管理」「機械更新費用」「資材価格高騰」など、経済面や労力面の負担が上位に挙げられ、その他に「鳥獣被害」なども営農の継続を阻害する要因として整理しています。</p> <p>この中で、「後継者不在」は就業環境などが影響していると考えられますが、農業の収益性向上や労力負担の軽減については、集落営農の組織化とともに、機械化や新たな技術導入等を通じて解決する方向で施策を整理しています。</p> <p>また、農業を主業とする経営体は減少傾向ではありますが、認定農業者は増加傾向にあり、多くは「現状維持」または「規模拡大」と回答されており、経営課題として「資機材高騰への対応」や「技術の向上安定」、「スマート農業の導入」などが挙げられています。</p> <p>このため、認定農業者等の専業農家には、生産基盤の確保とともに、生産性向上のための技術導入等を進めることとしています。</p>
5	<p>スマート農業技術導入時には、一定の支援がありますが、維持管理や更新に必要な経費について、生産者への支援は保証されていますか。高い機能を備えた機械は高額とならざるを得ません。</p>	<p>スマート農業技術は、現在の技術や機械の中には、投資額が大きく費用対効果が期待しにくい技術もありますが、自動かん水、環境測定、ドローンを活用した防除や施肥など、実用性が評価されているものもあります。</p> <p>現地の活用場面、条件に適した技術を取捨選択しながら、段階的に導入していく必要があり、そのための情報収集や情報共有、人材育成（技術習得）などの支援を進めて参ります。</p>

No.	ご意見の概要	町の考え方
6	<p>農業の将来像と基本目標にある「消費者が求める安心・安全で良質な農産物」とは何かよくわかりません。</p> <p>消費者に届けられる農産物に、残留農薬がない、遺伝子組み換えでないなどを証明をする体制を充実させ、消費者からの信頼を獲得し、市場の拡大を狙うことを検討されませんか。</p>	<p>「消費者が求める安心・安全、良質な農産物」について、一般的に「安全」とは、「残留農薬などの基準を順守」、「異物混入の問題がない」などが挙げられます。「安心」とは、消費者に信頼されるよう、適正表示や情報発信に努め、その関係性を築いていくものと思われます。さらに、「良質」とは、例えば鮮度や食味・食感などが挙げられますが、これは個人によっても差があるため、マーケティングを通じて需要にあった農産物をいかに供給するかを考えていく必要があります。</p> <p>また、出荷者それぞれが意識を持ち、共有できるよう研修会などを通じて徹底していきたく考えています。</p>
7	<p>外国依存の種苗、肥料対策がないと農業ができなくなります。</p>	<p>国や県の対策等も踏まえ、対応を検討する必要があります。</p>
8	<p>島根県を含めた、営農に関する相談体制を充実させることが必要ではありませんか。</p>	<p>新規就農等、既に整備された体制も含め、充実を図っていきます。</p>
9	<p>町から自給率アップのための農業振興政策を国に向けて発信し続ける約束をすること。</p>	<p>様々な機会を通じて、国や県に要望を伝えていきます。</p>
10	<p>吉賀町農業振興ビジョンの推進検証体制で、生産者に近い農業委員会の役割を重視し、再生協と同位で検証する体制が必要ではありませんか。課題を与えないと本来の農業委員会になりません。</p>	<p>全体では再生協での検証を考えています。</p> <p>農業委員会では、遊休農地の解消や農地の集積、新規参入の促進について、毎年目標を設定し、達成に向けた計画を立てて活動しています。そして年度末には、活動の点検と評価を行なうこととしています。</p>